

片瀬だより

令和4年12月25日発行
 編集・発行
 片瀬だより編集委員会
 藤沢市片瀬3丁目9番6号
 片瀬公民館
 電話 29-7171
 F A X 25-8907

片瀬公民館(本館)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、急遽中止・変更になる場合があります。

公民館事業のお知らせ ◎申込みは、すべて本館へ電話・来館(平日のみ午前8時30分から午後5時まで)またはメールで

知笑の輪倶楽部 《要申込》
 ・第5回 1月23日(月) 午後1時30分から3時30分まで
 『終のすみかを考える』
 申込先着20人
 ・第6回 3月13日(月) 午後1時30分から3時30分まで
 『スマホアプリにチャレンジ!』
 申込先着15人

オレの挑戦! 《要申込》
 ~Katase 男(DAN)dismへの道
 セカンドシーズン~
 ・1月21日(土) 午前10時から午後1時まで
 『イタリアンのできる男になる!』
 片瀬・江の島地区在住の40代~50代男性
 優先10人(抽選)
 ※メール申込となります

おひざの上のおはなし会 《要申込》
 ・1月20日(金)
 ・2月17日(金)
 ・3月17日(金)
 各回午前11時から正午まで
 対象:乳幼児と保護者5組



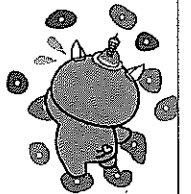
楽しく子育て 《要申込》
 ・1月18日(水) 午前10時から正午まで
 『手形メダルを作ろう』
 対象:未就園児と保護者8組
 ・2月15日(水) 『歯科相談』
 ①午前10時から10時45分まで
 ②午前11時から11時45分まで
 対象:未就園児と保護者各回4組
 ・3月15日(水) 『親子リトミック』
 ①午前10時から10時45分まで
 ②午前11時から11時45分まで
 対象:未就園児と保護者各回10組

おもちゃの病院 《申込不要》
 ・1月21日(土)・2月18日(土)
 ・3月18日(土)
 午後1時30分から3時30分まで
 ※部品代がかかる場合があります

スマホお助け隊 《要申込》
 ・1月10日(火)
 ・2月14日(火)
 ・3月14日(火)
 午前9時から正午まで
 各日3回入れ替え制の個別相談
 (各回2人ずつ55分程度)
 ※申込多数の場合は、抽選



子ども事業 《要申込》
 ・1月29日(日)
 ①午前10時から正午まで
 ②午後1時15分から3時15分まで
 『ボルダリングに挑戦~体も頭も使ってみよう~』
 場所:神奈川県立スポーツセンター(善行)
 対象:小学3年生から6年生
 各回15人



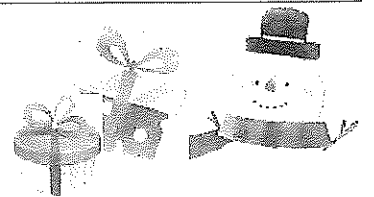
片瀬しおさいセンター

赤ちゃん和妈妈のふれ愛タイム 《要申込》
 ・1月17日(火) 『産後mamaのリカバリーピラティス With Baby』
 ①午前10時から10時45分まで
 ②午前11時から11時45分まで
 対象:生後4ヶ月から7ヶ月児と保護者各回4組
 ・3月6日(月) 『オイルトリートメントによる赤ちゃんのボディケア』
 ①午前10時から10時45分まで
 ②午前11時から11時45分まで
 対象:生後3ヶ月から7ヶ月児と保護者各回4組

卓球・バドミントン開放 《申込不要》
 ・1月15日(日)・2月19日(日)
 ・3月5日(日)
 〈バドミントン〉各回16人 入れ替え制
 ①午前9時から10時20分まで
 ②午前10時40分から正午まで
 各回、15分前から受付開始(先着順)
 〈卓球〉各回32人 入れ替え制
 ①午後1時30分から2時50分まで
 ②午後3時10分から4時30分まで
 各回、15分前から受付開始(先着順)



サロン de 手しごと 《申込不要》
 ・1月23日(月)
 ・2月27日(月)
 ・3月27日(月)
 午前10時から正午まで
 従来の「手芸のじかん」がリニューアルしました。手芸・折り紙も引き続きお楽しみいただけます。
 新しく「手織り」も始めてみませんか?



詳細につきましては、館内の配布チラシ・地域回覧・広報ふじさわをご確認ください。

ふれあいまつり講演会

「湘南モノレール

創業五十周年を迎えて」①

講師 湘南モノレール広報課長

花香晋生氏

片瀬だより編集委員会では、今回のふれあいまつりで、創業五十周年を迎えた湘南モノレールの歴史と片瀬との繋がりを紹介したく、同社の広報課長を講師として講演会を催しました。

90分ほどの講演でしたが、豊富な話題と巧みな話術で、楽しく、興味深く伺うことができました。当初の敷設計画から開通し、現在に至るまでのお話は驚くことばかりでした。

当初計画は、大船駅までJR根岸線が延伸され、大船駅が活性化することを見越したものでした。しかし、60年代の交通インフラの新技术導入の波に乗って、懸垂型モノレールを売り込むシヨールームとしての役割を考えて、観光地湘南の地が選ばれ、計画されたようです。

そこで当初は、江の島と江ノ島水族館の当たりを結ぶルートが計画されました。

しかし、それでは軌道のメンテナンスが困難であるとの予測や景観を損なうとの非難もあり、現在の姿になったそうです。

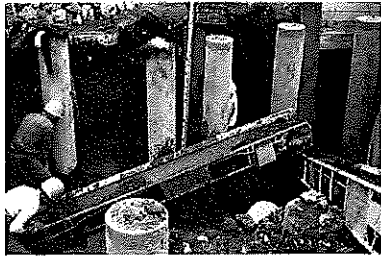
その後も江の島近くまでの路線の延伸は検討されていましたが、困難な課題が多く、ついに路線の延伸は断念されました。

現在はシヨールームとしての役割ではなく、地域住民の脚として定着し、乗降客も増えてきたそうです。

モノレールの利点として、ゴムタイヤを使用しているので騒音が少ないこと、土地取得費用が支柱部分で済むので費用が安い等をあげられました。しかし、現在の湘南モノレールにはトンネルが二箇所もあるので、敷設工事では様々な問題があり、難航した仕事があったそうです。

乗車して、いつもジェットコースターのようにだと思っていた西鎌倉と湘南深沢の間は、1000Mで74Mの高さを下る急勾配だと聞いて、腑に落ちました。会社のホームページには、時速75kmのジェットコースターと紹介されていました。

モノレールは「monorail」で、「mono」は「ただひとつだけ」という意味の古代ギリシャ語が由来です。一本だけの軌道で動くということ(単軌道)がよほど印象的だったのでしょうか。



地中に埋め込まれた杭。1本の支柱の基礎には、このような杭が20本近く埋め込まれます

片瀬の老舗を訪ねて⑦

「和田金物店」

今回お訪ねしたのは、江ノ電の江ノ島駅近くにある「和田金物店」です。屋号は「のみかん」。

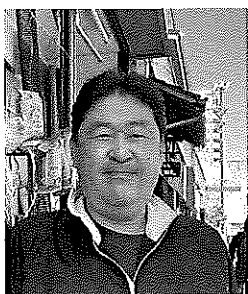


物が種類を超す数万種類の商品が店の内外に置かれています

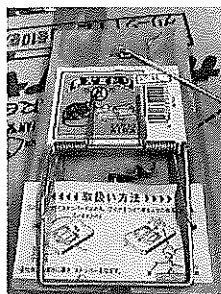
戦前から片瀬で金物店を営んでいるそうです。

片瀬、腰越には職人が多く、材木店もありましたので、仕事に行く前に必要な資材を調達するため、店の前にトラックが並び光景がありました。今では建築の工法も変わり、店の商売も様変わりしたとのお話でしたが、お店でお話を伺っている間にも職人さんが次々に建築に必要な材料を買いに来ていて、現在でも、物づくりには大切なお店なのだと感じました。

取り揃えている商品は、身近なホースやジョウロなどの日常生活用品から、ペンキなどの専門的な道具まで、その種類は万を超す数になるとのことです。



4代目社長 和田哲治さん



ネズミ捕りもありました



職人さんが買うの釘やビスは箱単位です

現在は、趣味としてのDIYや、簡単な家の修理などをするお客さんのために、道具の選び方、使い方を教えることが多くなり、そちらが主流になってきているとお話でした。ぎっしりと積み上げられた商品は、建築にはじまり、日々の暮らしの中で無くてはならないものばかりでした。

鎌倉時代、江の島に登場する人々の足跡を辿る③

堀 浩侃

「吾妻鏡」によると、建保四年丙子(一二一六)正月十五日「己巳、晴れ、相模国江島明神の託宣あり、大海急に道路に變ず。仍つて参詣の人、舟船の煩ひ無からんと。鎌倉よりはじめ、国中の緇素(僧と俗人)上下群をなす。誠に以て末代稀有の神變なり。三浦左衛門尉義村、御使としてその靈地に向ふ。帰つて(神變)靈驗あらたかなものでした」と記されている。

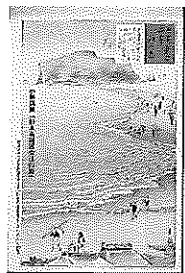


「江の島図」画家 高橋由一

これ以降は、江の島参詣が容易になるなど江の島にとっては、画期的な出来事であった。江の島は、陸繋島となる。幕府からは三浦義村が將軍家(実朝)御使として、確認にきている。同年三月十六日には將軍実朝の夫人も参詣している。鎌倉時代末に描かれた遊行上人絵巻(清浄光寺蔵)には、江の島に徒歩で渡る様子が描かれている。弘安五年(一二二八二)、一遍上人が布教活動で鎌倉に入ることを、第八代執権北条時宗に拒否され、片瀬の浜に四ヶ月滞在して教えを広めていたとき、江の島に渡り、井戸を掘

り当て飲料水に困っている島民を助けた。

江の島は五万年位前に、海蝕作用や地殻変動の結果、片瀬から離れて島になったといわれている。そして鎌倉時代に干潮時に海底が現れて、江の島と対岸の片瀬の浜が繋がり、陸繋島になった。沖からの波が江の島を囲んで、東側からの波と西側からの波がぶつかって弱まり、ここに沿岸流や境川から運ばれてきた砂が堆積しトンポロ(陸繋砂州)が出来る。江の島ではトンポロは春から夏の新月または満月の干潮の時のみ現れる。



「日本名勝 図会江の島」明治期浮世絵師 小林清親作

江の島と同じ陸繋島である。なお高橋由一の絵でもわかるとおり、私たちの子どもの頃は



「江の島」中丸定昭撮影

江の島は干潮時に向かつて江の島弁天橋の右側(西側)が渡れたが、片瀬漁港などの整備によって渡れる場所が江の島大橋の左側(東側)にかわった。

江の島は教材の宝庫③

「石碑や鳥居に彫られた

字を読んでみよう」

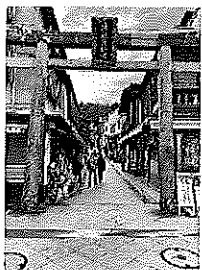
江の島を歩いていると、いろいろなところに石碑があることに気が付くと思います。

辺津宮近くの手水舎にある灯籠は裏に「寛政九年巳年三月吉日」と彫られており、1797年に寄進されたことがわかります。小道具屋さんの団体からの寄進のようです。

元号と西暦の対応表を用意して、石碑に刻まれた建立の年を読み取って調べてみましょう。色々な時代の石碑があることが分かって楽しいと思います。

また、中津宮入口には「貝細工問屋が金匱千円を寄付した」とか、読めばわかる石碑も結構ありますので、年号以外も読み取ってみましょう。

それでは最後に問題です。表参道入口には、青銅製の鳥居がありますが、どんな人たちが寄進したものでしょう? ①地元の漁師②鎌倉の宿舎組合③江戸の商人たち 正解は江の島を見てみてください。



表参道入口の青銅製鳥居

著・写真 鹿児嶋 英克

私の散歩道

「日の出の風景を見に」

晴天の日は日の出の風景を見にスマホをもって出かける。

黄色の雲や朝日に照らされ赤紫から青紫に変わる富士山など、片瀬ならではの風景を楽しむことができ。最初に眺めるのは山本橋から境川と丹沢山塊の風景。

境川の西側の川べりから龍口寺の仏塔のあたりが朝日に照らされていて、国道を潜って東浜に行くと、三浦半島からの日の出の風景を楽しむことができる。



2022年11月9日 午前6時27分の風景 (片瀬海岸西浜から撮影)

片瀬のワンショット



壁をのぼっている様なリスの彫刻。どこの壁にいるか、ご存じですか? (答えは4面です)

ふるさと片瀬く今昔あれこれ⑧

中村 喬

「片瀬こま」の話

テレビはもちろん、ラジオのない家「幸ちゃん」などと呼んだりした。幸もあつたという終戦後、子どもたちもつばら外での遊びに興じた。めんこ、ビー玉などは今のゲーム世代の子どもたちにもわかるだろうか。「駆逐・水雷」「タイヤの輪回し」「空き缶の下駄」など次々に思い出す。

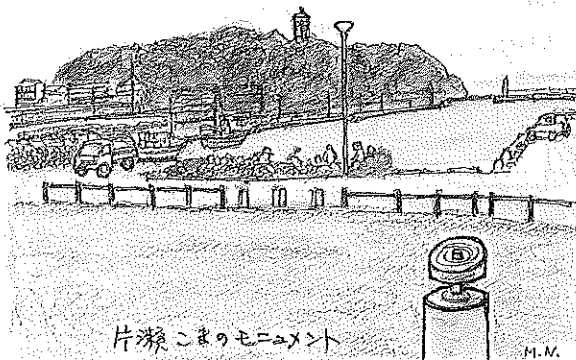
なかでも、片瀬の子どもたちにとつて片瀬こまの遊びは忘れがたいものがある。私が子どもだった頃、片瀬には片瀬こまのほかには大山こまがあつた。その名のとおり大山で作られたこまで、片瀬こまより大きかつたように記憶している。ただ、材質が柔らかくて、こま同士ぶつけ合うと片瀬こまにはかなわなかつた。喧嘩こまとも呼ばれた片瀬こまは小ぶりだつたが、本体は椿、心棒は樫で作られていて硬かつた。こまの心棒にひそかにレコー

に使われた。お年寄りが孫の誕生を祝つて贈つた片瀬こまが今も大切に置かれていた家もある。

作り手はただ一人、熊野幸太郎さんだつた。私たちは親しみを込めて「幸ちゃん」などと呼んだりした。幸ちゃんの作る片瀬こまは洲鼻通りにあつた一軒のお店で買うことができた。

今、片瀬こまは「片瀬こま保存会」の皆さんのご尽力で、保存や普及の活動が行われている。片瀬こまの作り手は幸太郎さんのご子息の熊野安正さんだ。ご高齢になられたが、伝統ある郷土玩具のために頑張つていらつしやる。有り難いことだ。

【手に抱ひなほ回りたる片瀬こま】



片瀬こまのモニュメント

片瀬漁港

片瀬こまは縁起物としてお祝い事

片瀬市民図書館からのご案内

電話28-6935

11月1日から市内の市民図書館と図書館がオンラインで繋がりに、貸出方法が変わりました。

変更点は次のとおりです。

◎図書館の本も含め、藤沢市の資料の貸出は図書館カードが必要です。

◎1枚の図書カードで

*図書(本・雑誌・紙芝居など) 10冊

*CD・カセットテープ 5点

*貸出用ビデオ・DVD 2点

が借りられます。

◎現在、図書館の貸出証だけをご利用の方は、図書館カードへの切り替えが必要となります。

※既に図書館カードをお持ちの方は、お手続きは不要です。

◎図書館カードは、4つの図書館と市民図書館で作成できます。

(作成には現住所が確認できるものが必要です)

◎借りた資料は、市内の図書館・図書室ならどこでも返却できます。

ご不明な点がありましたらカウンターにお尋ね下さい。

のぞいてみよう！公民館

「第43回片瀬地区

ふれあいまつり」

10月22日(土)・23日(日)の2日間に渡って、3年ぶりに「片瀬地区ふれあいまつり」を開催し、天候にも恵まれ、多くの方にご参加いただきました。

コロナ禍のため、模擬店の飲食の販売、古本市、バザーはありませんでしたが、新しい試みとしてシンポジウムや子育て広場が行われ、どちらも盛況でした。

スポーツ・レクリエーション部会、音楽・芸能部会、展示部会にも多くの方が観覧されました。

2日間のまつりは無事に賑やかに開催することが出来ました。開催にご尽力頂きました皆様、ありがとうございました。

編集後記

江の島には江の島囃子というお囃子があり、毎年天王祭で神社に奉納する。島民による島民のためのお囃子である。観光で有名な江の島であるが、観光化せずに受け継がれているのが素晴らしい。

先日、NHKのあるテレビ番組のため、江の島で収録がなされたが、その中でこのお囃子も紹介される。このまま、受け継がれていってほしいものだ。(M)

【片瀬のワンショット答え】片瀬しおさいセンター壁面